

## 肥後六花

細川家の熊本藩第6代藩主・細川重賢（1721-1785）は藩政改革で有名です。重賢は多くの趣味を持つ教養人でもありました。熱心な博物学者で、動植物図鑑を大量に収集していました。重賢は、後に肥後（熊本の旧名）六花と呼ばれるようになる花の本格的な栽培を始めたと言われています。

## 肥後六花

名称	開花時期
肥後椿	2～4月
肥後芍薬	5月初旬
肥後菖蒲	6月初旬
肥後朝顔	7～9月
肥後菊	11月下旬
肥後山茶花	11～12月

花を育て、鑑賞することが紳士的で望ましい功績とされるようになり、熊本の武士はグループを形成し、最も美しい花を生産すべく競い合いました。武士の間では、雌しべができるだけ大きくて目立つこと、花びらが大きくて重なりが少ないことなどが美しさの基準とされていました。下の表のように、1年のうち11カ月は、肥後六花のうち少なくとも1つが開花しています。鑑賞におすすめの場所は水前寺成趣園と、修復工事が終わり次第ですが、熊本城の庭園です。